

Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第195号

Nanae Historical
Museum Collection

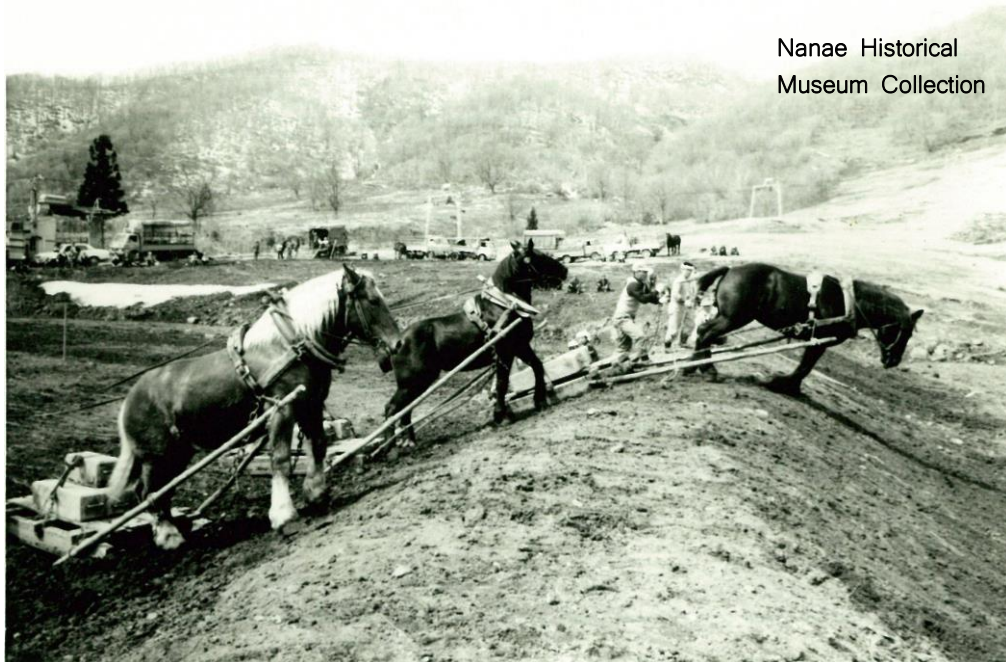
ななえ古写真物語 VOL.195

峠下牧野組合

だれが轡馬大会を開いたのか？

昭和40年代か？

仁山地区



自分の馬の力を競うことを目的とした轡馬（ばんば）は、かつて日本各地で盛んに行われていた。当然七飯町でも開催されていたことを示す写真を、当館では何枚か所蔵しているものの、では一体どこを会場としていたかは、よくわかっていない。昭和51年に発行された『七飯町史』の畜産の章にも「轡馬大会」と説明が書かれた写真が掲載されているものの、本文中には轡馬について、特に触れられていない。

ところが、最近山積されてた峠下地区の古写真を整理していたら、峠下中学校（すでに廃校となっている）の写真の中に、上の轡馬大会の写真が含まれていた。いかにも農耕馬らしい太い脚、そりに乗せられた重し、人工的に盛られた土塁を乗り越えようと、馬たちが力強く駆け回っている様子は、現在の七飯町ではあまり見ない光景である。

写真の背景に写っている山の稜線、スキーのリフト施設と思われるもの、左奥に見える宿泊施設と思しき建造物の存在から、仁山にあるスキー場と断定できた。ここは、もともと峠下牧野畜産農業協同組合の管理地であるので、轡馬大会が開かれたとしても何ら不思議ではないのだが、平成10年に発行された同組合の創立50周年記念誌『半世紀の追憶』にも、轡馬大会について触れられていないため、轡馬大会の主催者は不明としか言えない。

話は変わるが、七飯町の畜産の歴史を顧みると、馬の存在が記録として残されたものは、安政3年（1856年）に市川十郎が記した「蝦夷実地検考録」と考えられる。それによると、峠下村には馬80匹、牛135匹とあり、早くから牛馬の飼育が行われたことがわかるし、ペリーによって開港された函館において、外国船が牛肉や牛乳を要求したことを受け、軍川地区に牛牧場を設置。残念ながら熊の害が多く短期間で廃止となったが、残った牛は峠下に移されたと記録されている。おそらくは、市川十郎による調査以前から、牛馬の飼育は行われていただろうが、その詳細を記したものは、まだ見つかっていない。

ちなみに、昭和44年に発行された『峠下郷土誌雑記』によると、峠下において牧野組合が結成されたのは、明治12年頃で、内沢久蔵が組合長となり、組合員68名、飼育している牛の数は百数十頭だったという。その後、仁山に搾乳場を建設したりし、大正8年に七飯村とその周辺の村々の畜産を統括する形で、七飯牧野畜産農業組合が組織されると、峠下村の牧野組合も編入する形となったが、昭和2年には脱退し、峠下牧野組合と名付けて独立したという。

仁山にスキー場が開設したのは昭和36年である。この写真は、それ以降も仁山で轡馬大会が開かれていたことを示す貴重な一枚である。

7日 夜の博物館

第3夜の講座は、自然保護監視員の金澤晋一氏を講師にお迎えし、まずは、ヨーロッパやアメリカ、東アジアのブナ帯の地図を見るところから始まり、地球上でブナのある場所はとても少ないことがわかりました。ブナは森を象徴する木、保水力の秘密の解説にも納得です。また、これから目にするフキノトウの雄花と雌花の特徴、熊鈴の効果の有無、他国の社有林の保有率についてなど、お話は多岐にわたりました。自然は変化し、人の時間と森の時間は違う、という大切なことも教わった講座でした。



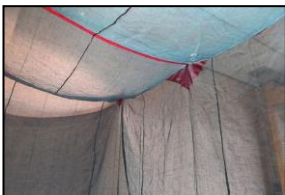
17日 ジュニア探検クラブ

スノーシューを履いて、列になって森を歩き、木々の間から見える空を仰ぎ、自然の中に身を置いて、樹木を観察する。この日のジュニア探検クラブの子どもたちは、センス・オブ・ワンダーな時間を体験しました。木々はなぜこの場所にいるのか、枝の伸びる方向から、どんなことがわかるのか? など、冬の森を先生に、考える時間は、きっと思い出に残るでしょう。身近にある学びの森では、冬芽も観察してきました。



企画展が始まります。

今月27日から企画展が始まります。タイトルは、『これはなに〇〇? 使ったことある? 見たことある? 答えを探して巡る展示』。生活道具を中心に、かつて見たこと・使ったことがある、もしくは初めて見た、といったものをクイズ形式で展示します。細かな解説をあえて省き、使い方の気づきだったり、自分ならこう使う、などそれぞれ自由に感じてもらえたらと思い企画しました。5月26日まで開催します。是非足をお運び下さい。



1	月 休館日
2	火 企画展「これは、〇〇??」
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月 休館日
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月 休館日
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月 休館日
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日
29	月 昭和の日
30	火 休館日

※休館日：1日、8日、15日、22日、30日

ソノシート

透かすときれいな赤色のレコード。ビニール製で、見たことがある人もいます。は? 小学生のとき学習雑誌の付録であったのを思い出します。



編集後記 ~tawagoto~

文章の終わりを示す「。」(マル)を巡る議論があると、最近の新聞記事で知った。マルによる「マルハラメント」という言葉もあるそうだ。SNS等のやりとりで「了解。」や「はい。」などと返信すると、世代によっては、怖い、冷たいと印象づけることもあると、その記事では書いていた。正直かなり驚いた。世知辛いとも感じた。仕事柄「書く」という行為は、茶飯事だ。皆が皆そうではないと思いつつ、世の中の捉え方をぼんやりと見ている。

Pichart ~ピチャリ~

第195号

令和6年3月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp